

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成22年度採択）

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
22-1	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用についての研究開発	東京工業大学 教授 朝倉 康夫	A

<研究の概要> ※成果報告レポートより引用

都市高速道路上で発生する交通事故等の突発事象を、できる限り速やかにかつ正確に検出し、その事象によって生じる旅行時間の変化を予測して利用者に提供することにより、インシデントによる社会的費用の増加をできるだけ抑制しうる交通運用方法の研究開発を行った。

<事後評価結果>

都市高速道路の突発事象発生時の交通運用の最適化という目的達成のために、入手・活用可能な観測データの分析、適用により、突発事象検出および交通容量低下の継続時間、交通状況、提供交通情報に対する経路選択行動の実時間予測シミュレーションのフレームワークを構築した意義は大きい。分けても、経路選択モデルをパーソンプローブ調査および Web-SP 調査によるパラメータ同定法で裏打ちしたこと、および交通容量低下の継続時間に対して多段階予測手法を導入し精度向上を図った点に特徴がある。これらにより、都市高速における交通運用への活用の可能性が明示されており、研究の目的・目標は十分に達成されていると評価する。

<参考意見>

1. 研究成果の質と量は高く評価でき、実務に向けて大きな期待ができる。
2. 今後は、プローブデータ等を活用した突発事象等の総合的判断、シミュレーションの高度化や他の路線への活用など、さらなる発展を期待する。
3. 今後の課題として、観測データが整備されている高速道路内の経路選択に働きかける交通運用策についても、現況再現性を十分に評価して上で、検討していただきたい。
4. 今後は、研究成果を統合した政策パッケージの実現に向けて、さらに考察を深化していただきたい。
5. 実務への応用に関しては、関係機関との連携が必要であり、演習のようなことも必要と考えられる。
6. 今後とも、実務者や海外研究者との交流を深め、最先端の研究水準を維持していただきたい。